

thankyon! 令和乙年度 留前市底景基金の使り道のご紹介



1. 萌える若者たちのまちづくりに関する事業



1. 地域戦略推進事業

≪活用額: 1, 283, 083円≫

次の世代につなげる新たな戦略づくりに向け、未来技術の活用や外部企業との連携など、地域資源の価値を高める取り組みを具体的な施策への反映を図るため、プロジェクト立案等に要する調査・研究・企業訪問等を実施しました。



2. 音楽合宿のまち「るもい」事業
≪活用額:166,410円≫

音楽合宿の受け入れにあたり市民力が発揮できる環境を整えることにより、合宿を通じて市民が音楽に触れ合う機会を創出し、交流人口の拡大に向け取り組みました。新型コロナウイルスの影響から、前年度に比べ合宿参加校は減少しましたが、受入団体におきましては、安全に合宿を実施することができました。



関係交流人口創出事業
≪活用額:2,008,770円≫

合宿誘致により交流人口の拡大を図るとともに、地域と多様にかかわる関係人口の創出に向けた取り組みを行い、地域経済の活性化や移住・定住の促進を図りました。新型コロナウイルスの影響は受けたものの、3団体を受け入れることができ、利用者からは好評をいただきました。また移住定住の促進に向け、情報サイトを

1. 萌える若者たちのまちづくりに関する事業



4. 経済振興対策事業

≪活用額:111,960円≫

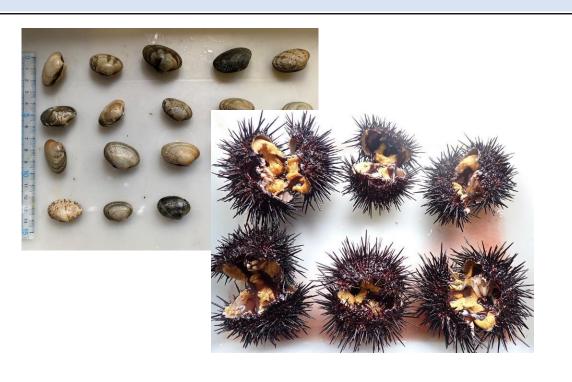
地域振興の取り組みに対して即効性のある支援を実施するために「るもい元気チャレンジ助成金」を交付する事業を実施しました。地場産品を活用したオリジナルスイーツ、オリジナルパッケージを開発し、留萌の知名度向上及び地場産品の消費拡大による経済的な波及効果をもたらしました。



5. 西海岸集客力向上事業委託料 《活用額:532,400円》

付加価値の高い観光サービスと滞在時間の延 長を図るおもてなし事業を実施し、より多く の来訪者を呼び込むため、ゴールデンビーチ や黄金岬への誘客事業を実施しました。一部 の事業は新型コロナウイルスの影響から中止 したものの、夏休みのウニ獲り体験はたくさ んの方に参加をいただきました。

2. ふるさとの海づくり・里山づくりに関する事業



6. 産学官連携強化事業

≪活用額:1,152,288円≫

留萌市漁業の更なる振興と、産学官連携による事業実施体制の整備により、相互の利益を得ることを目的に実施しました。本事業では漁が天候に左右されやすいウニと日本海沿岸で生産が少ないアサリについて試験を行いました。

3。食のブランド化・食育に関する事業



7. 観光ブランド向上・販路拡大PR事業 ≪活用額:1,020,636円≫

道内外の都市圏で開催されるイベントにて、観光・特産品のPRを実施し、留萌の知名度向上を図りました。新型コロナウイルスの影響から、事業やイベントが多く中止となりましたが、PRポスターの作製や雑誌掲載を活用し、PRを行うことができました。



8. 学校給食地元食材活用事業 ≪活用額:440,826円≫

学校給食のメニューに、地場産品や郷土食を入れることで、郷土愛を育成し、食に対する興味や大切さを伝えることができました。今年度は、味付け数の子とカズチーを提供しました。

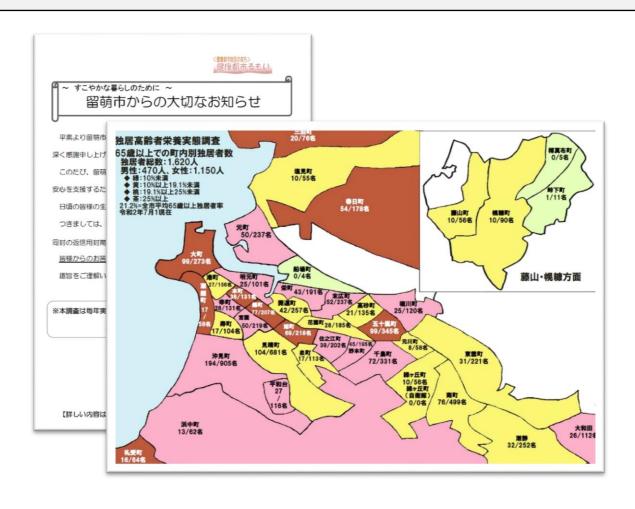
4. 健康で輝きのある元気づくりに関する事業



9. るもい地域住民健康づくり啓発強化事業 ≪活用額:1,152,288円≫

るもい健康の駅が主体となって実施している調査研究事業を活用した予防医学の観点から健康を学び集う場を創出し、生活習慣病・介護・認知症などの予防を軸とした啓発活動を強化し、留萌市が掲げる「健康長寿のまちづくり」の実現を目指し、セミナーなどを開催しました。

5。安心して暮らせる地域医療づくりに関する事業



10. 地域リスク介入研究推進事業委託料 ≪活用額:2,417,856円≫

高齢化社会に伴い、生活習慣病を背景とする糖尿病、脳卒中、認知症が増加している中、そのリスクが特に高いとされる独居老人に焦点を当て、課題の抽出と適切な対応に向けた分析を行うことで、高齢者の生活機能の低下を未然に防止することを目的に事業を実施しました。

6. 子どもの健全な育成に関する事業



11. 寺子屋・るもいっこ事業 ≪活用額:807,916円≫

「るもいの宝」である子ども達が、ふるさとを愛し、勉強や学び、体験などを通じて自ら考え行動し、将来の夢を育むことができるよう、地域住民や各団体と連携しながら「地域の学びの場」を開設し、基礎学力の向上や学びのきっかけづくりを行いまた、食育の推進を目的に地元食材を活用した体験教室なども開催しました。



12. 防災備蓄品・資機材整備事業

≪活用額: 3, 000, 000円≫

大規模災害が発生した場合の災害被害を想定し「留萌市防災備蓄計画」に基づき、被災者の避難生活に必要な最低限の備蓄物資や資機材を整備し、非常時の備えを行いました。

13. 道の駅開業準備等事業

≪活用額:166,410円≫

令和2年3月に全線開通した高規格道路深川・留萌自動車道の終点「留萌 I C」に隣接した立地条件を活かし、船場公園を「道の駅るもい」として登録しました。道の駅るもいの登録を契機に、市内や管内への人の流れを呼び込む玄関口として、新たな賑わい創出や交流拠点の形成を図るため、情報発信力の強化やくつろぎの空間を整備するために、基金を活用しました。







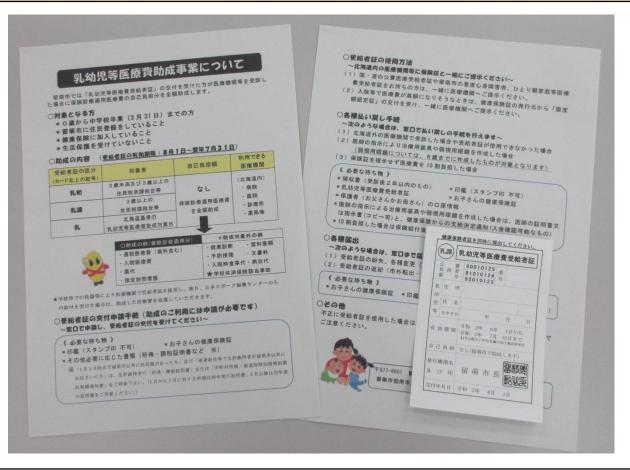
14. 道の駅チャレンジショップ開設事業≪活用額: 7, 3 4 6, 1 1 1 円≫

留萌の食材を活用した起業や新商品のニーズ調査など、市内事業者等が一緒に道の駅を盛り上げ、留萌の食の魅力を発信する場としてチャレンジショップを開設し、新たな取り組みを実践できる環境を整えました。チャレンジショップを開設することで、食の魅力を発信できたことはもちろん、街中への消費誘導や新たな賑わいの創出につながりました。



15. 道の駅アンテナショップ開設事業 ≪活用額:2,606,281円≫

道の駅の立地条件を活かし、街中誘導の拠点とするため、留萌の地場産品や農水産品などを取り扱い、特産品の魅力を発信しるとを目的にアンテナショップを開設しちるした。多くの道路利用者や観光客が立ちました。多いで、特産品の情報発信力を高めるとによって、留萌の魅力向上・街中の消費につながりました。



16. 乳幼児等医療扶助費

≪活用額:20,989,638円≫

留萌市内に住む中学生までの医療費を無償化し、子ども達が安心して必要な医療を受けることができる環境を整え、子育て世代の経済滝負担の軽減を図ることで、留萌市の未来を担う子ども達の健やかな成長を促しました。



17. スポーツセンター等整備事業

≪活用額: 1, 177, 000円≫

全国大会に子ども達が多く出場するなど、 留萌市内の卓球熱が高まっているほか、令 和4年には卓球の全道大会の開催が予定さ れていることから、卓球台を更新したこと で子ども達の夢を応援し、市民の健康増進 にもつながっていきます。



18. 郷土歴史保存活用事業

≪活用額:1,240,700円≫

三船殉難事件に関する児童・生徒向けの冊子「留萌沖三船遭難~終戦秘話~」を作成しました。この資料を活用し、戦争の悲惨さ、平和の大切さを後世に伝えていけばと考えています。また、「留萌のニシン治と佐賀番屋漁場」を増刷し。文化財愛護の精神を培い、郷土愛を育むための冊子として活用していきます。



19. 冬季スポーツ環境整備事業

≪活用額: 2, 272, 597円≫

冬季スポーツ活動やレクリエーション活動の 充実を図るために圧雪車を整備しました。こ の圧雪車を活用し、市民の健康増進やクロス カントリーを始めとするスキー競技における 人材発掘・育成、留萌駐屯地の訓練等を含め た協力体制の構築につなげることができまし た。



20. 障害児養育支援事業委託料

≪活用額:5,158,296円≫

障がいを持つ児童が、児童センターを分け隔てなく、安全に利用するため、児童センター等に必要な指導員を配置することができました。障がいを持つ児童が分け隔てなく集団の中で過ごすことにより、児童の豊かな人間形成を行うことができ、児童福祉の向上を図ることができました。



21. 保育施設(保育所)運営事業

≪活用額:7,260,330円≫

認可保育所を運営する社会福祉法人等に対し、 保育の運営に関する費用を支出し、保育を必要とする児童を入所させることで保護者が安定的に就労することができました。また、保育施設の安定的な運営と保育の充実も併せて図ることができました。